

**平成31年度大学院地球社会統合科学府**

**修士課程（冬季）入学試験**

**入学試験問題**

**言語コミュニケーション・言語教育**

**注意事項**

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

【共通問題】

問1. 次の1～18から6つ選び、選んだ語句の番号を解答用紙に書いた上で、それぞれ具体例を挙げて説明しなさい。(20点×6=120点)

1. 訓民正音
2. アブギダ
3. 糸魚川・浜名湖線
4. 派生と屈折
5. ロマンズ諸語
6. 指定文と措定文
7. 混合研究法 (mixed methods)
8. ファシリテーション (facilitation)
9. コミュニカティブ・アプローチ (communicative approach)
10. 場面シラバス (situational syllabus)
11. ロールプレイ (role play)
12. 自律(立)学習 (learner autonomy)
13. 最近接発達領域 (ZPD: zone of proximal development)
14. 加算的バイリンガリズム (additive bilingualism)
15. 義務的文脈 (obligatory context)
16. 議論における虚偽(誤謬) (fallacy in Argumentation)
17. 省略三段論法 (enthymeme)
18. エコーチェンバー現象(メディアにおける) (echo chamber (in media))

【選択問題】

問 2. 次の I ~ VIII から 2 つ選び、それぞれについて解答しなさい。選んだ問題の番号を解答用紙に書きなさい。(40 点×2=80 点)

I 以下の(1)(2)(3)の問いに答えなさい。(40 点)

(1) 指示転換 (switch reference) とは、どのような現象か、説明しなさい。  
(10 点)

(2) 括弧内に最も適切なことばを入れなさい。同じ番号には同じ語が入ります。  
①②⑤⑥には格の名称、③④には言語名が入ります。(各 3 点×6=18 点)

世界の言語を見渡すと、いわゆる格組織は多様であり、日本語などの、対格型以外にも、いくつかの類型がある。例えば、他動詞で示される行為の主体を、主格とは異なる格である ( ① ) で示し、行為の目的物を、自動詞文では主語を示す格と同じ格、すなわち ( ② ) で示す言語がある。こうした言語を ( ① ) 型言語と呼ぶ。( ① ) 型言語には、( ③ ) や ( ④ ) などがある。また、同じ自動詞文であっても、自動詞の主体が自分の意志で行なった動作を表す文では、主語が他動詞文の主語と同じ格である ( ⑤ ) をとり、一方で、自分の意志で動作を行なったのではない場合には、他動詞文の目的語と同じ格である ( ⑥ ) をとるような言語もある。

(3) 括弧内に最も適切なことばを入れなさい。同じ番号には同じ語が入ります。  
①には言語名、③には地域名が入ります。(各 3 点×4=12 点)

日本国の版図内で使用されている言語のうち、日本語との系統関係が認められていない言語として ( ① ) がある。多くの言語において、格関係は、名詞に標示されるが、( ① ) では、名詞ではなく、その名詞を支配する動詞や名詞に標示される現象が見られる。これを ( ② ) と呼ぶ。例えば、**ekasi ku-nukar** (私がおじいさんを見た) と、**ekasi en-nukar** (おじいさんが私を見た) では、名詞 **ekasi** (おじいさん) 自体に格の標示はなく、それが目的語であるか主語であるかは、それを支配する主要部としての動詞 **nukar** (見る) に倚辞的な **ku-** (目的語が 3 人称単数である 1 人称単数主語) が付くか、**en-** (主語が 3 人称単数である 1 人称単数目的語) が付くか、によって明示される。このように、主要部が ( ② ) を出す言語は、( ① ) 以外にもあり、アサバスカ語族、スー語族など、とりわけ ( ③ ) に多いことが知られている。また、( ① ) では、名詞は数に関して無規定だが、一定の動詞には、単複の区別があり、なかには、**a/rok** (座る)、**rayke/ronnu** (殺す) のように、補充法的な、いわゆる ( ④ ) も存在する。

II 以下の(1)(2)の問いに答えなさい。(40点)

(1) 次の文章を読み、空欄に適切な語あるいは人名を入れなさい。同じ番号の空欄には同じ語が入ります。(各2点×10)

- a. 語の多くは、**taka-sa** (高さ)、**yama-oku**(山奥)、**mono-siri-gao** (物知り顔) のように、複数の ( ① ) から成り立っている。2つの ( ① ) から成り立つ語のうち、**yama-oku** (山奥)、**naga-ame**(長雨)のように、2つとも語根である場合を ( ② ) と呼ぶ、これに対し、**taka-sa** (高さ)、**o-mizu**(お水)のように、2つの ( ① ) の一方が語根、もう一方は ( ③ ) である場合は、( ④ ) と呼ばれる。
- b. ( ⑤ ) は、ある言語集団に属するすべての話者に共通の、均質的な言語体系としての ( ⑥ ) と、話者が特定の状況で使用する言語としての ( ⑦ ) を区別し、言語学が研究の対象とすべきは ( ⑥ ) であるとした。( ⑤ ) にとって、言語記号の ( ⑧ ) はその体系性から決定される。そのような言語記号の ( ⑧ ) の安定性を保証するのは、すべての記号の ( ⑨ ) と ( ⑩ ) の結合が、同じ言語のすべての使用者に共通のものであるという事実である。

(2) 以下の質問に答えなさい。

a. 「文法化」を簡潔に説明しなさい。(5点)

b. あなたが知っている言語の「文法化」の事例をあげ、説明しなさい。(15点)

III テキストマイニングに関する以下の(1)(2)の問いに答えなさい。(40点)

(1) テキストマイニングとは何か、説明しなさい。また、どのような目的で行われるか、具体例を挙げて説明しなさい。(20点)

(2) テキストマイニングの結果を可視化する手法を1つ取り上げ、その手法の特徴や利点を含めて説明しなさい。(20点)

IV スピーチ・アコモデーション (**speech accommodation**) について、以下の(1)(2)(3)(4)の問いに答えなさい。

- (1) スピーチ・アコモデーションとは何か？簡単に説明しなさい。(10点)
- (2) コンバージェンス (**convergence**) とは何か、具体的な例を挙げて説明しなさい。(10点)
- (3) ダイバージェンス (**divergence**) とは何か、具体的な例を挙げて説明しなさい。(10点)
- (4) アコモデーションの失敗の例にはどのようなものが考えられるか、例を挙げて説明しなさい。(10点)

V 日本語学習における媒介語使用について、以下(1)(2)の問いに答えなさい。(40点)

- (1) 媒介語使用による正の影響、負の影響についてそれぞれ述べなさい。(20点)
- (2) 上記をもとに、教授法の観点から日本語学習における媒介語使用の是非に関するあなたの考えを述べなさい。(20点)

VI 以下の問いに答えなさい。(40点)

バイリンガリズム (**Bilingualism**)と複言語主義(**Plurilingualism**)とは何か。具体例をあげながら説明しなさい。

VII 「言語は模倣を通じて学ばれる」という主張に関する以下の(1)(2)の問いに答えなさい。(40点)

- (1) 賛成の立場と反対の立場を、それぞれ根拠をあげて説明しなさい(各10点)。
- (2) あなた自身は最終的にどちらの立場をとるか、理由をあげて論理的に述べなさい(20点)。

VIII

下記文章はディベート大会の論題変更に関する論文 “Policy debate topic change controversies in the US and Japan” の一節です (Mitchell, Hahn, & Aonuma 2018, pp. 39-40)。この文章および一般的なアカデミックディベートの知識に基づいて(1)(2)(3)(4)の設問に答えなさい。

- (1) 下記引用文に基づき、大会主催者の NADE (全国教室ディベート連盟) と読売新聞社が福島原発事故の直後に論題を変更した公式の理由を二つ挙げなさい。(各 5 点)
- (2) 突然の論題変更が大会に参加する生徒やその指導者にとって好ましくない理由は何ですか。下記引用文に基づいて具体的に説明しなさい。(5 点)
- (3) “If ever there is a time when critical thinking and debate should be especially valued, it’s in a time of crisis.” (David Zarefsky in an interview soon after the 9/11 attacks in the U.S. in 2001.上掲論文 p. 48) という考え方を参考にして、ディベート甲子園の論題を変更すべきでなかった理由を具体的に説明しなさい。(10 点)
- (4) 議論法の訓練としてのディベート、教育ディベートと実社会のつながり、高校生への「教育的配慮」なども総合的に考慮し、福島原発後にディベート甲子園の論題を変更したことについて、複数の観点から考察を加えなさい。(15 点)

「ウェブ公開版では著作権法上の問題により、問題文原文を削除した。問題文はディベート大会の論題変更に関する内容の英文 28 行」